

事業報告書

団体名：NPO 法人プロジェクト保津川

1. メニュー名	(1) スタート事業 (2) ステップアップ事業 (3) 市民連携事業
2. 事業名	みんなで調べて学ぶ、亀岡の自然と文化
3. 実施場所	亀岡市内全域及び当団体事務所
4. 実施期間	平成28年4月1日 ～ 平成29年3月31日
5. 実施内容	実施した内容を具体的に記入してください。(実施スケジュール、会場、内容、講師名、参加者数、情報など)

本事業では、「100年先も自然と共存していくまちづくり」をテーマに、それにつながる活動として、広く市民で自然環境調査を実施し、市内の現況を把握し、次世代を担う若者を中心として地域の自然資源の価値を確認しその保全策や利活用の議論を通じて、人材育成に取り組んだ

<ツバメ調査>

本調査は2016年6月～8月に実施した。結果、情報提供69名の方から396個の巣の情報が寄せられた。ここから重複を確認し、合計279ヶ所、389個の巣が確認された。亀岡市内で確認されたツバメは3種類であり、ツバメ、コシアカツバメ、イワツバメの巣が見つかった。昨年度の調査ではヒナの数がわかっている巣は21個に留まっていたが、今年度の調査では116個に増えた。市全体では一つの巣のヒナの数は3.97羽/巣(n=116)となった。なお、これは、巣立ち前のヒナまたは巣立ったヒナの数である。(公財)日本野鳥の会が2013年に実施した「ツバメの子育て状況調査」では、巣立ちヒナ数と都市化との関係を分析し、村落エリアでの巣立ちヒナ数が4.28羽に対し、都市部では3.87羽と都市では巣立ちヒナが少ないことが報告されている。また同調査では、巣立ちヒナ数は、首都圏での郊外では4.4羽、近郊で3.9羽、都心で3.5羽という結果が報告されている。亀岡のデータは3.97羽であり、都市近郊のデータに近いことがうかがえた。

なお、これらの結果をプリントに整理し、保育園、幼稚園、小中学校、図書館等にて配布を依頼した。また昨年度から2ヶ年実施した調査の結果報告書も作成した。

<河川ごみ調査>

本調査は全国川ごみネットワークとの協働により、全国調査「水辺のごみみつけ！」の調査用データカードを作成して実施したが、本年度は試行期間と位置づけ、大規模な調査は見送ったため、「川と海つながり共創プロジェクト」の事業として実施した(本支援金は使用せず)。調査では、市内在住及び南丹市内在住の親子を対象に募集し、保津峡における漂着ごみの状況を調べた。成果については、第3回川ごみサミット亀岡保津川会議(2017年3月4日、会場：京都学園大学)にて報告した。

<じぶん未来塾>

10月～3月の毎週木曜日に計18回開催し、のべ143人の受講者があった。本事業では、一連の調

査の結果などをもとに、100年先を見据えた亀岡のまちづくりや環境保全策、観光振興について、次世代育成事業「じぶん未来塾」において議論した。また、本事業では、フィールド調査の分析手法などについての講義も行い、データをもとにした議論のスキルの習得も目指した。さらに、一連の調査結果をもとに、亀岡のまちや自然が持つ魅力を広く海外に発信できる人材の育成を目指して、毎月末にはあっちこっちプロジェクトのマネベ・リョウ氏を招いて英会話教室「あっちこっちプロジェクト English ワークショップ」(計6回)や、亀岡のまちづくりに関する講演会「先輩に聞いてみよう！」(計7回)を開催し、高校生や大学生が社会人とともに学び合い、議論できる機会を提供した。

参加費：500円/回

毎月第2木曜日のあっちこっちプロジェクト English ワークショップは1,000円(教材費含む)

会場：プロジェクト保津川事務所会議室

スケジュール(木曜日が祝日等の場合及び年末年始は休講)

<2016年>

10/6(木)説明会

10/13(木)あっちこっちプロジェクト English ワークショップ [1]

10/20(木)亀岡の町を考える[1]

10/27(木)先輩に聞いてみよう! vol.1

「楽しいだけじゃない!記憶に残るイベントの秘密」

講師：二神麻里(イベント/コミュニティービルディングスペシャリスト)

11/10(木)あっちこっちプロジェクト English ワークショップ [2]

11/17(木)亀岡の町を考える[2]

11/24(木)先輩に聞いてみよう! vol.2

「駆けつける。そばにいる。～国際協力の現場から」

講師：原田早苗(公益社団法人日本国際民間協力会(NICCO)シリア事業統括)

12/1(木)先輩に聞いてみよう! vol.3

「京の都の暮らしを支えてきた保津川水運の歴史と文化」

講師：豊田知八(保津川遊船企業組合代表理事)

12/8(木)あっちこっちプロジェクト English ワークショップ [3]

12/15(木)亀岡の町を考える[3]

12/22(木)世界じもと～くないと!

<2017年>

1/12(木)あっちこっちプロジェクト English ワークショップ [4]

1/19(木)亀岡の町を考える[4]

1/26(木)先輩に聞いてみよう! vol.4

「私のものづくり生活」

講師：西野康造(彫刻家)

2/2(木)先輩に聞いてみよう! vol.5

2/9(木)あっちこっちプロジェクト English ワークショップ [5]

2/16(木)亀岡の町を考える[5]

「外国人が見る亀岡の魅力は何か？そして、どう伝えるか・・・」

講師：ミシェル・リオング（亀岡市 国際交流員）

2/23（木）先輩に聞いてみよう！ vol.6

「若き鉄道員（ぼっぼや）たちが夢を語る」

講師：中村陽飛（JR 西日本二条駅）、井上美南（JR 西日本馬堀駅）

3/2（木）先輩に聞いてみよう！ vol.7

テーマ：「地域創生 成功の方程式はあるのか？ -できる化・見える化・しくみ化-」

講師：木村俊昭（東京農業大学教授・内閣官房シティマネージャー）

3/9（木）あっちこっちプロジェクト English ワークショップ [6]

6. 成果

事業の実施により、課題解決がどのように図られたのか、申請時の事業計画書と対比させるかたちで、事業の効果や成果を数値、具体例などを用いて具体的に記入してください。

<ツバメ調査>

本調査では、7月以降、調査協力依頼のプリントを市内の全小中学校、幼稚園、保育園を通じて配布した。また、インターネット上でも調査協力を募るとともに、新しい試みとして facebook の広告機能を活用して、調査の告知に務めた。特に、昨年度はデータの少なかった川東地区や、篠町などの新興住宅地エリアからも多数の情報が寄せられ、亀岡市内のツバメの営巣状況をより詳細に把握することができた。イワツバメについても営巣確認場所が1か所から6か所に増えた。近年は、糞害などによりツバメの営巣を嫌う家庭も増えているが、今回の調査では調査協力者の自宅のツバメの巣の報告が多くあり、その中には屋外ではなく室内に巣がある例や、ヘビヤカラスに襲われないよう工夫されている人も少なくなかった。糞害については、NPO 法人バードリサーチ（東京）が、段ボール製のフン受けの普及に努め、全国の道の駅や鉄道の駅、高速道路のサービスエリア、一般の希望者などに配布するなどしており、今後、良好な生息環境の保全とあわせて本市でも「ツバメ“も”子育てしやすいまちづくり」の実現に向けた提言を行っていききたい。

さらに、報告書も市教委の協力のもと、市内全学校で配布することができた。

<河川ごみ調査>

小学生とその保護者を対象に実施した川ごみ調査の取り組みは、第3回川ごみサミット亀岡保津川会議などの場で報告され、全国的にも高い注目を集めた。また、安詳小学校では、5年生の「総合学習」において「海ごみ学習」が実施されており、その助言を行なっている。

<くじぶん未来塾>

今年度のくじぶん未来塾は、昨年度、亀岡みらいパース主催の「第3回亀岡ソーシャル大学 外国人観光客への本当の「おもてなし」とは・・・亀岡の観光未来図～これからの外国人観光客誘致（インバウンド）を考える！！」（2016年1月16日、ガレリア亀岡にて開催）に講師として参加されたマナベ・リョウ氏が京都市内で実施されている英会話教室「あっちこっちプロジェクト English ワークショップ」への関心が高かったことを踏まえて、亀岡でも毎月第2木曜日に開催することとした。また、この講座で講師を当団体の原田（大阪商業大学准教授）と豊田（保津川遊船理事長）も務め、同じく好評を得たことから、それを発展させる形で「先輩に聞いてみよう！」を開催した。この「先輩に聞いてみよう」では、多様なゲストスピーカーを招き貴重なお話を伺えただけではなく、聴講者も多様な人が

集まり、亀岡の町の魅力や課題について多くの人とともに考える良いきっかけとなった。

さらに、〈ツバメ調査〉の結果などを踏まえて亀岡の町の魅力について議論する〈じぶん未来塾〉の「亀岡の町を考える」講座では、前述の「あっちこっちプロジェクト English ワークショップ」の成果を踏まえて、「私の大好きな亀岡」を英語で表現することにまでチャレンジできた。

一連の事業を通じて、これまでの当団体の主催する環境関連イベントとは異なる参加者層を開拓することができ、支援者の獲得に繋がったことも大きな成果であった。

7. 協働の効果	事業実施にあたって、他団体等と協働で実施された場合は、実施の効果や今後に向けての課題について、具体例などを交えながら具体的に記入してください。 ※市民連携事業に関わらず、他団体との協働があった場合は記入してください。
----------	---

〈ツバメ調査〉は当団体にとっても、初めての取り組みとなる一般公募型の市民参加型環境調査であり、SNS を活用した調査協力の呼びかけや、市内各学校・幼稚園・保育園などへのチラシ配布などを通じて、これまでアプローチが十分でなかった層への呼びかけを行うことができた。貴重なデータが多数集まり、またそれらを活用した事業を実施できたが、亀岡みらいパスで中心的な役割を担ってきた方の逝去などもあり、今後の事業の継続には、当団体の基盤強化など協力体制の再構築が課題となっている。

また、〈河川ごみ調査〉については、全国調査「水辺のごみみつけ！」の準備の遅れもあり、今年度は試行的な調査にとどまったが、次年度はぜひ市内全域での調査を実施したい。〈じぶん未来塾〉については、参加者から大変好評をいただいただけでなく、「あっちこっちプロジェクト English ワークショップ」や「先輩に聞いてみよう！」を通じて、多様な個人・団体とのつながりが生まれた事業であったが、当団体の現在の体制では職員の負担も大きいため、今後、まちづくりに関心のある若年層との連携など、新たなあり方を検討している。

8. 今後の展開	事業の実施成果を受けて、今後の事業展開をどのようにされるのか、申請時の事業計画書と対比させるかたちで、記入してください。
----------	--

本事業で取り組んだ 2 つの環境調査は、いずれも市民参加型の手法をとっており、広範なデータを集められる反面、特に〈ツバメ調査〉では GIS データの入力など、スタッフにある程度の IT スキルを要するものである。今後は、スマートフォンのさらなる活用や Web アンケートの手法を援用するなどともにデータ入力ボランティア等を募るなどして、事務局スタッフの負担を軽減し、継続的な調査の実施につなげたい。

また、今後の継続的な事業の実施にあたっては、自主財源の充実のほか、民間の助成金などにも積極的に応募するとともに、全国の同様の取り組みを進める団体との交流を通じて、より効果的な調査手法の開発に引き続き努める。また、〈じぶん未来塾〉事業を通じて、これまでにない新たな支援者を獲得することができ、今後の調査活動や環境保護活動の実施に当たっても連携を深めたい。

※チラシや参加者への配布資料、事業実施写真など実施状況が分かる資料を添付してください。

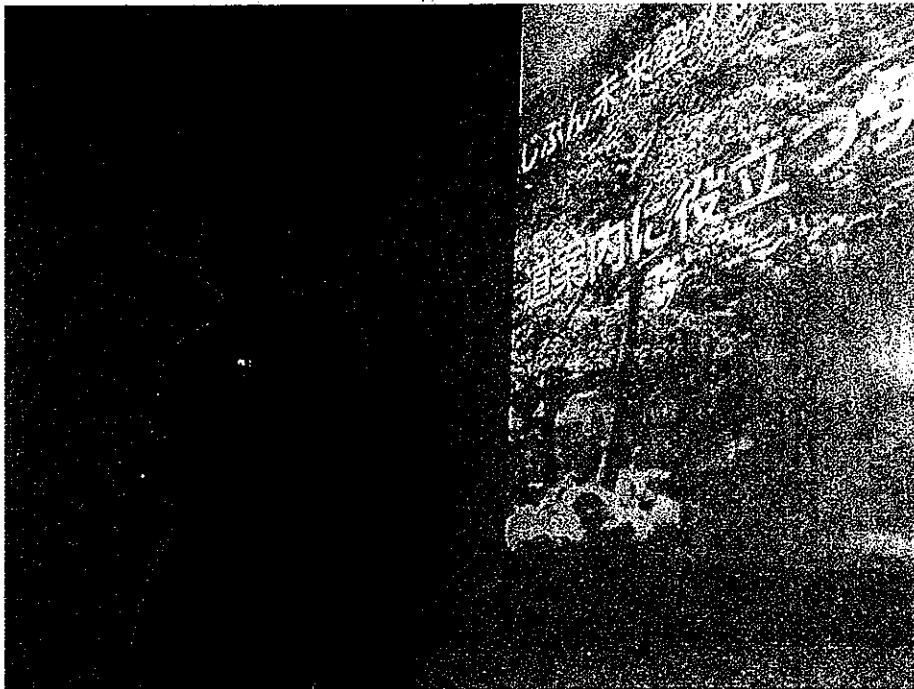
※記載内容が本様式に入りきらない場合は、適宜追加してください。

じぶん未来塾 講義風景

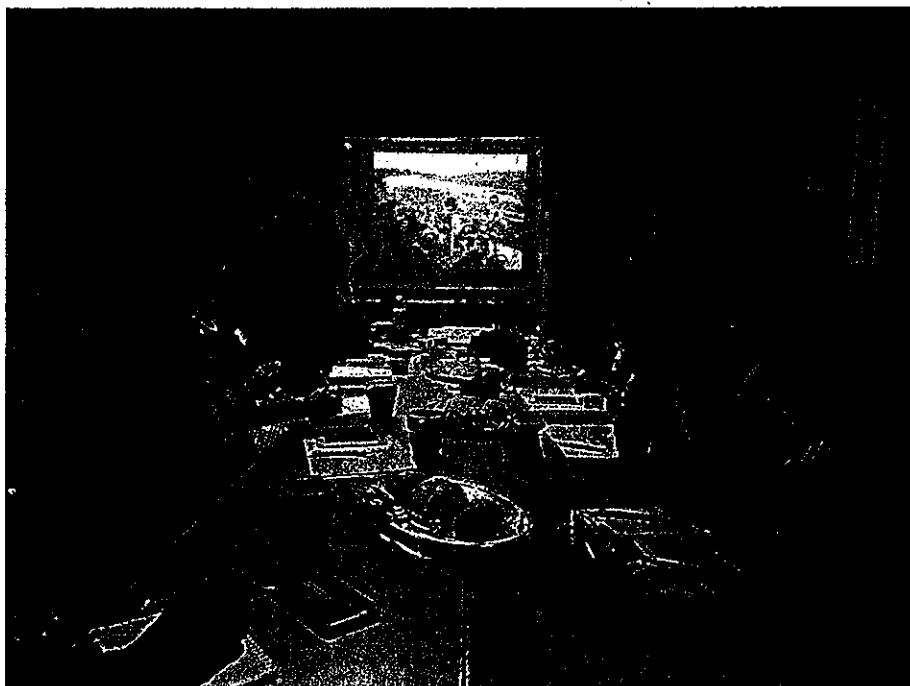
あっちこっちプロジェクト English ワークショップの講師 マナベ・リョウ氏



こっちプロジェクト English ワークショップ 講師のアリヨ氏



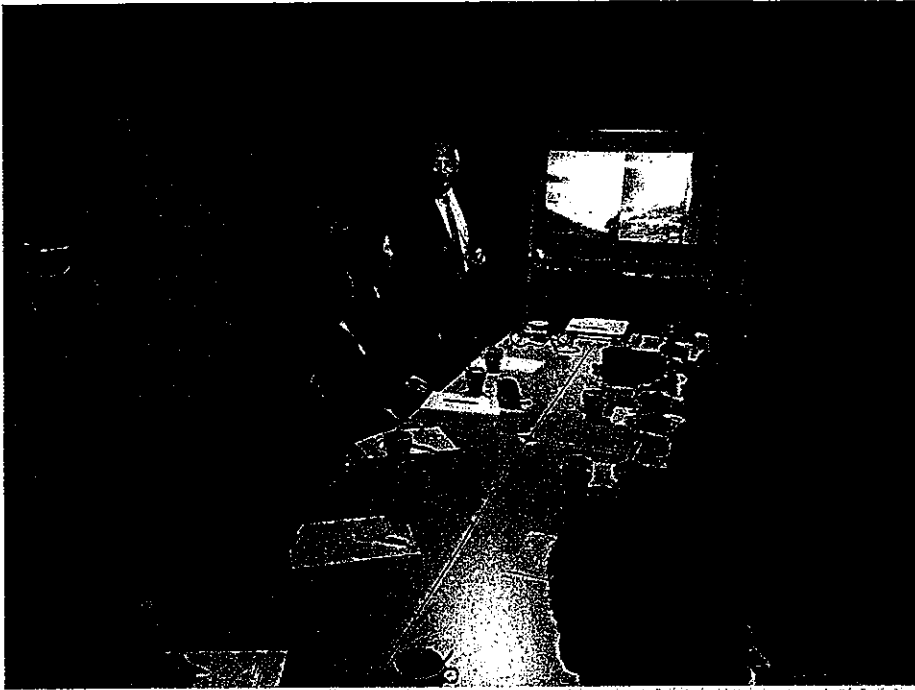
10/27 先輩に聞いてみよう！ 二神麻里氏の講演



11/24 先輩に聞いてみよう！ 原田早苗氏の講演後、ヨルダンのシリア難民女性が制作した刺繍を見学した。



12/1 先輩に聞いてみよう！ 豊田知八氏の講演



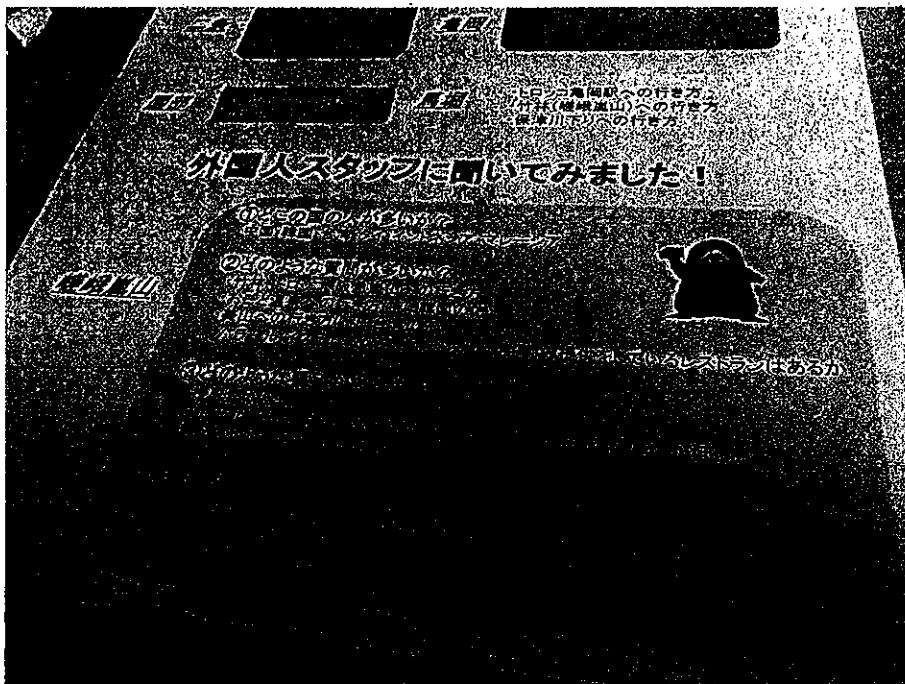
12/15 亀岡の町を考える 講義風景



1/26 先輩に聞いてみよう！ 西野康造氏の講演



2/23 先輩に聞いてみよう！ JR 職員の皆さんによるプレゼン資料



3/2 先輩に聞いてみよう！ 木村俊昭氏の講演



3/2、先輩に聞いてみよう 木村俊昭氏との記念撮影



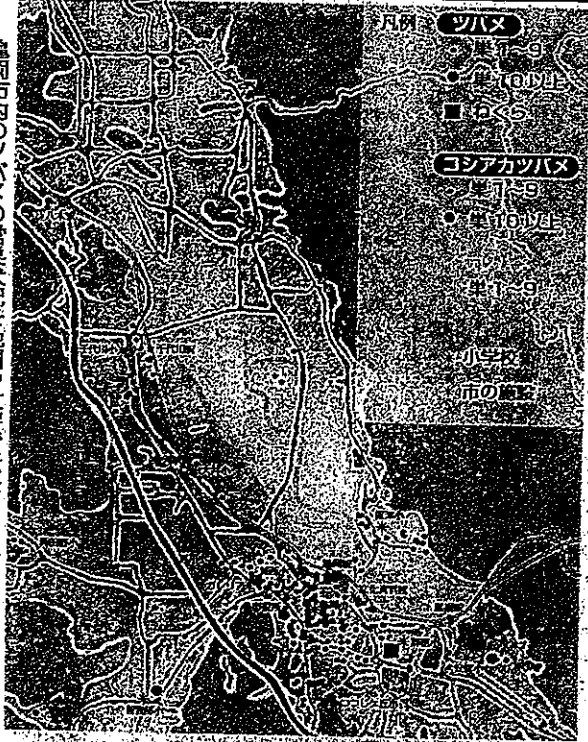
第3種郵便物認可

京

亀岡ツバメの巣526確認

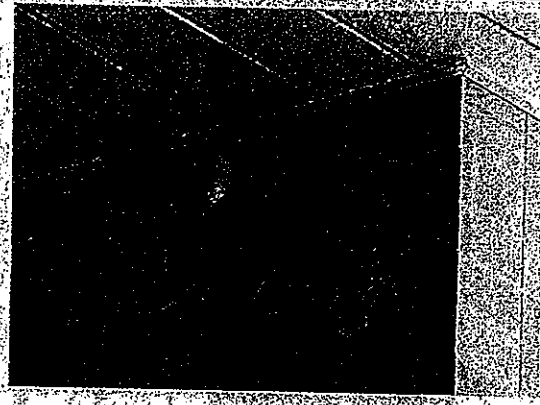
亀岡市の市民団体「亀岡みらいパース」は昨年6～8月に市内で初めて実施したツバメの営巣調査の結果をまとめた。市民から計536の巣の情報寄せられ、2カ所のねぐらが確認された。巣は平野部の住宅や公共施設などが多かった。結果をまとめたパンフレットを、市内の公共施設などで配布している。

亀岡市内のツバメの営巣状況を地図や数字で伝えるパンフレットの1部



確認された巣はツバメ350、ロシアカイツバメ150。イワツバメ20だった。このうち旧城下町にあたる亀岡地区中部が97、同東部57、同西部35の順に多かった。

亀岡市内に営巣したツバメ (2015年5月)



昨年6～8月、市民団体調査

新興住宅より城下町好む?

一方、新興住宅地のつつじヶ丘3地区は計7と少なかった。ツバメは平野部の住宅、ロシアカイツバメは行政機関の庁舎や学校など、公共施設で多く確認された。

亀岡みらいパースによると、多かった地区は巣の材料となる泥や餌の虫がとれる水田や河川敷に近かった。新興住宅地が少ない理由は、新建材の外壁は泥がつきにくい可能性があるという。

今年も調査を予定しており、昨年の結果を比較してデータを蓄積する。

調査に協力した元日本野鳥の会京都支部長の八木昭さん(大井町)によると、篠町の住宅街にある5千羽規模の大規模なねぐらが近隣住民以外の人たちにも広く知られるようになったといい、「調査を通じて多くの市民が、身近なツバメに関心を深めた意義は大きい」と話している。(秋元太一)